

みんなの学校

トセパン・
カルネマチティロヤン

トセパン協同組合における学校教育

メキシコでは、親の経済的な理由と合わせ、毎日通学できる距離ではないところにしか学校がないということも要因となって、学校に通えない子どもが多くいます。トセパン協同組合の組合員も、そうした問題を抱えていました。そこで、学校を作ろうとの思いから、2006年に幼稚園、2008年に小学校、その後、中学校も設立されました。これらは現在、メキシコ政府の認可を受けた私立の学校となっています。

学校の名前は、「トセパン・カルネマチティロヤン」。ナワット語で「みんなの学校」という意味です。まさにトセパンらしい名前です。「みんなの学校」は地域内外で高く評価されており、いつも見学者が絶えません。海外から視察に来る人もいます。入学希望者も多いのですが、運営費の確保が難しく、教師を増やせないという現状から、組合員の子どもに限定して受け入れています。幼稚園から中学校まで合わせて80人程度がここで学んでいます。

「みんなの学校」では、モンテッソーリ教育をベースに、先住民の文化や知識を反映させた独自の教育を行っています。ここの学校教育で、大切にされている3つのことがあります。

まず1つめは、「組合員としての心構え」です。子どもたちは、トセパンという組合の一員として誇りを持ち、将来的にもこの地域で暮らしていけるよう農作業、ハチミツの採取作業、民芸品づくりを体験します。ペテランの組合員の指導を受け、子どもたちはさまざまな作業を体験します。野菜作りにしても、土づくりから収穫までのサイクル全体を学びます。同時に、組合の歴史を学ぶことで、トセパンの重要性や組合員としての意識を育んでいきます。

2つめは、「先住民の言語や文化の再評

価」です。特に、家庭でスペイン語を話す子どもが増えており、ナワット語の話者、またナワット族としてのアイデンティティーの喪失に対してトセパンは危機感を感じています。このため、幼稚園からナワット語の授業があります。また、言葉だけではなく、身近な物や自然に対するナワット族の考え方を学びます。

そして3つめは、「地域の豊かな資源の再確認」です。地域の動植物を調べ、図鑑づくりをしています。植物に関しては、伝統薬として使ってきた薬草の知識も、お年寄りに聞き取りをしながらまとめます。また、この地域の在来種のハリナシミツバチのハチミツ採取作業を行うことで、伝統技術と森を守る大切さも学んでいます。

この他、メキシコの一般的な学校では見られない掃除の時間も設けています。子どもたちに校舎の清掃活動をしてもらうことで、男女の区別なく家事を分担できるようにしてほしいという考えもあるそうです。これを取り入れたきっかけは、トセパンのアドバイザーであるレオナルドさんが来日した際、日本の学校を訪問したことでした。レオナルドさんは、



貯蓄の習慣を身につけるために行われた貯金箱作りのワークショップ。幼稚園のみんなで、いろいろな貯金箱を作った。

を使って伝統的な食事を作っています。しかも、この給食は、毎日子どもたちの親が交代で学校に出てきて作ります。同じものばかりにならないよう献立も親たちが話し合って決めます。栄養のある愛情たっぷりの給食を食べることで、子どもたちは食べ物と給食を作ってくれる親たちへの感謝の気持ちを持つことになりました。

これらに加えて、音楽教育においても面白い取り組みをしています。それは、「みんなの学校」の児童や生徒を中心に結成されたオーケストラです。これも、レオナルドさんが来日した際の経験から考えられたものでした。日本滞在中に幼稚園を訪問する機会があったのですが、そこで先生がピアノを弾くと、それまで騒いでいた子どもたちが静かになり、先生の話を聞き始めました。その様子がとても新鮮で、音楽がもたらす心理面への影響を改めて感じたレオナルドさんは、トセパンへ戻ると早速音楽を学校に取り入れることにしました。ピアノは入手できないので、最初はギターを使用していました。その後、国立音楽院から講師の派遣と楽器の貸与を受けて、現在はオーケストラに発展しています。

トセパン協同組合設立当初の世代を第一世代とすると、現在「みんなの学校」に通う子どもたちは第三世代。そして、彼らの親にあたる第二世代でも、ナワット語を話すことができない人たちもいます。しかし、学校でナワット語やその伝統を学んだ子どもたちが、家庭で親に伝える、教えるということも見られるようになりました。今後は、こうした第二世代へのナワット語の教育も大きなチャレンジとして取り組んでいきたいそうです。

幼稚園の第一期生は、すでに大学生になっています。中にはメキシコシティ(首都)の国立農業大学で学ぶ学生もいて、卒業後に地元で活動するため勉強に励んでいるといえます。今後も、ナワット語や先住民としてのアイデンティティーが失われないよう、トセパンではナワット語の教科書や教育をさらに充実させ、学校教育に力を注いでいきます。



民族衣装で卒業式に臨む子供たち



小学校の卒業式。トセパン組合員みんなで花を持ち寄り、手作りで会場が設置されている。